

第 73 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第七三回 2014 年 11 月 22 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 17 : 00 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 尼野、井端、大野、小林、齋藤、杉本、夏目、浜田、宮川、山本、渡邊
(11 名)

1. テーマ : 再生企業の分析—株式会社イチケン—

・ 報告者 : 浜田勇毅 ・ 配付資料 : 10 枚

・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社イチケン (以下、イチケンとする) の収益性分析をおこない、さらに粉飾に至った要因の検討をして再生の可能性について検討した。

イチケンの売上額および各項目別利益額は、過去 5 年間の財務諸表上では上昇傾向にある。収益性指標も ROE は上昇傾向を示している。ROA の上昇がみられ、EOL の改善もみられる。一方長期視点でみると、イチケンは 2000 年度から度々純損失の計上を行っているため、その原因を調査する必要があるとの議論が生じた。また、イチケンは継続的受注確保のために、安値受注を繰り返し、工事原価の先送りをおこない粉飾を行っていた。したがって、では内部統制の改善および管理部門の補強が急務であろうと指摘した。

イチケンは、財務数値をみる限りでは再生へ向かっていようと評価した。しかし、近年における業績向上は、経済環境の外的要因が大きいのか、イチケン自体の力で収益力を向上させているのか、現時点では結論付けられず継続的な研究が必要であるとなった。

2. テーマ : 『企業間信用の調査方法と売上債権管理』

・ 報告者 : 井端和男 ・ 配付資料 : 41 枚

・ 報告内容の要旨

本報告では、取引先の信用状態を判定する手法として、取引先に対する売上債権に関する分析方法、くわえて回帰分析の利用した分析を試みたものである。具体的には、回転期間による分析で求めた数値と、回帰分析を利用して求めた数値を比較検討した。

取引先との取引開始に先立って、倒産等のリスクを判断するために信用調査をおこなう必要がある。そのための信用度合の調査方法として、売上債権回転期間を用いて分析した。加えて、精緻な分析を行うために、回帰分析を用いた信用度合いの分析を提案した。

3. 今後の予定について

・ 12 月 6 日 (土) 分析企業—椿本興業— 小林先生

・ 1 月 24 日 (土) 未定

(文責 : 浜田勇毅)